

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「SBIグローバルESGバランス・ファンド（為替ヘッジなし）（愛称：グリーンインパクト）」は、2023年5月29日に第4期決算を行いました。

当ファンドは、主として外国投資信託証券「Lofanz-クライメイト・トランジション（円ヘッジなし ユーロ建）」及び「Lofanz-グローバル・クライメイト・ボンド（円ヘッジなし ユーロ建）」への投資を通じて、ESG投資及びインパクト投資の手法により、世界の株式及び債券等（社債、政府保証債、政府機関債、国際機関債等）に投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行いました。

ここに期中の運用状況と収益分配状況についてご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

第4期末（2023年5月29日）

基準価額	12,719円
純資産総額	1,420百万円
第4期	
騰落率	2.4%
分配金（税込み）合計	0円

（注1）騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

（注2）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しています。

（注3）当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しています。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>
右記URLにアクセス⇒「ファンド情報」⇒「当該ファンド」を選択⇒「目論見書・定期レポート等」を選択⇒「運用報告書（全体版）」より該当の決算期を選択ください。

SBIグローバルESGバランス・ファンド （為替ヘッジなし） （愛称：グリーンインパクト）

追加型投信／内外／資産複合

交付運用報告書

第4期（決算日2023年5月29日）

作成対象期間（2022年5月31日～2023年5月29日）

 SBI Asset Management

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間：営業日の9：00～17：00

ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。

<http://www.sbiasset.co.jp/>

運用経過

基準価額等の推移

（2022年5月31日～2023年5月29日）



期 首：12,424円

期 末：12,719円（既払分配金（税込み）：0円）

騰 落 率： 2.4%（分配金再投資ベース）

（注1）当ファンドは外国投資信託証券への投資を通じて、ESG投資及びインパクト投資の手法により、世界の株式及び債券等（社債、政府保証債、政府機関債、国際機関債等）に投資を行い、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載していません。

（注2）当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載していません。

○基準価額の主な変動要因

上昇要因

- ・新型コロナウイルスによる行動制限が緩和され、経済活動の正常化が世界的に見られたこと
- ・2023年4月以降の米消費者・生産者物価の伸び鈍化により、米連邦準備制度理事会（FRB）の利上げ継続観測が後退したこと
- ・2022年11月以降、米消費者・生産者物価の伸び鈍化などから、FRBの大幅な利上げ継続観測が後退したこと
- ・FRBが急速に金融引き締め強化を進める中、米国国債利回りが上昇し、米ドル高円安傾向が続きました。さらに日銀が、基本的に、FRBや欧州中央銀行（ECB）と逆に金融緩和維持を続けたため、ユーロなど米ドル以外の通貨に対しても円安基調となりました。なお、2022年10月から2023年1月にかけて、景気減速懸念やインフレ鈍化期待からFRBの金融引き締めペース減速への期待が見られたこと、日本銀行の金融緩和政策の修正観測などから、急速な円安進行が調整し、円高方向への修正が見られました。

下落要因

- ・世界的なインフレ上昇と、FRBを始めとする各国中央銀行によって急速な利上げが行われたこと
- ・米銀破綻やスイス金融大手の経営悪化による金融システム不安が強まったこと

1万口当たりの費用明細

（2022年5月31日～2023年5月29日）

項 目	当期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	146 円	1.174 %	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	（ 61 ）	（0.494）	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	（ 82 ）	（0.658）	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	（ 3 ）	（0.022）	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	17	0.135	(b)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	（ 7 ）	（0.053）	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 ）	（ 10 ）	（0.082）	開示資料等の作成・印刷費用等
（ そ の 他 ）	（ 0 ）	（0.000）	信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	163	1.309	
期中の平均基準価額は、12,415円です。			

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

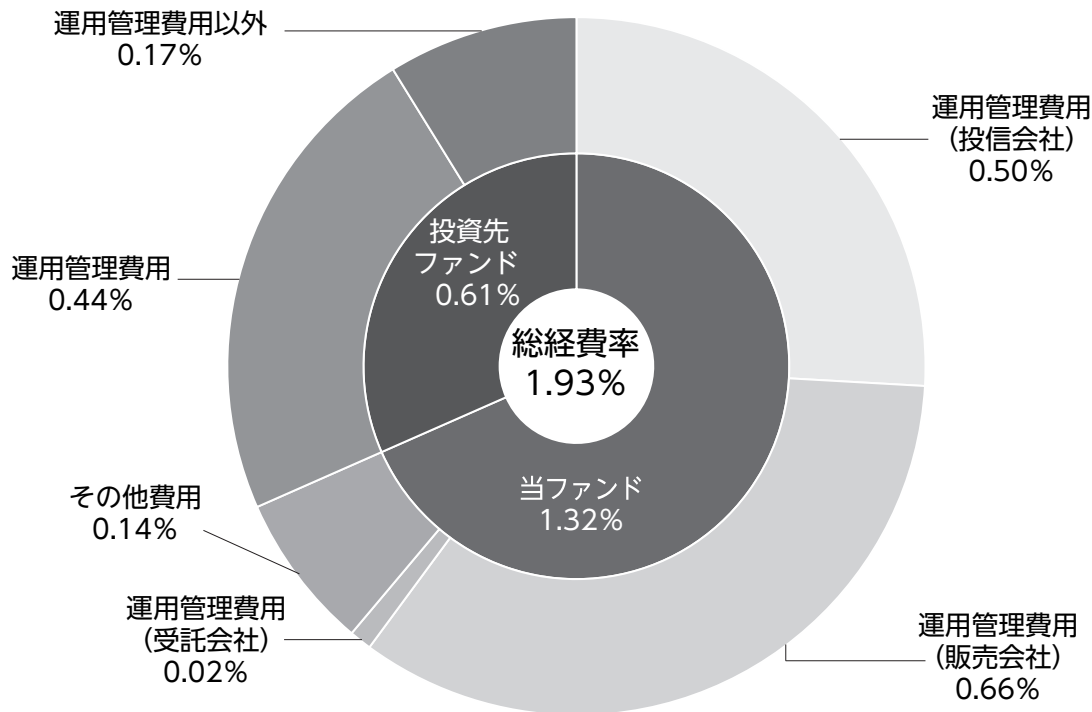
(注4) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

（参考情報）

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.93%です。



(単位：%)

総経費率 (①+②+③)	1.93
①当ファンドの費用の比率	1.32
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.44
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.17

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) ②の費用は、各月末の投資先ファンドの保有比率に当該投資先ファンドの運用管理比率を乗じて算出した概算値です。

(注3) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。

(注5) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券です。

(注6) 当ファンドの費用は、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注7) ①と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2018年5月28日～2023年5月29日）



(注1) 当ファンドについては設定日以降のデータが5年に満たないため、実在するデータ（2019年5月30日から2023年5月29日）のみの記載となっています。

(注2) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載していません。

	2019年5月30日 設定日	2020年5月28日 決算日	2021年5月28日 決算日	2022年5月30日 決算日	2023年5月29日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,010	11,930	12,424	12,719
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	0.1	19.2	4.1	2.4
純資産総額 (百万円)	777	1,220	624	967	1,420

(注1) 当ファンドは外国投資信託証券への投資を通じて、ESG投資及びインパクト投資の手法により、世界の株式及び債券等（社債、政府保証債、政府機関債、国際機関債等）に投資を行い、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載していません。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しています。

(注3) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2020年5月28日の騰落率は設定当初との比較です。

投資環境

（2022年5月31日～2023年5月29日）

※下記データ及びコメントにつきましては、本ファンドの主要投資対象である「LOファンズ-クライメイト・トランジション」及び「LOファンズ-グローバル・クライメイト・ボンド」をそれぞれ運用するロンパー・オディエ・アセット・マネジメント（スイス）エス・エー又はロンパー・オディエ・アセット・マネジメント（ヨーロッパ）リミテッド/アフーマティブ・インベストメント・マネジメント・パートナーズ・リミテッド（AIM）（以下、「ロンパー・オディエ社」と総称することとします）からの資料を基にSBIアセットマネジメントにて編集しています。

【株式市場】

2022年は、世界経済が様々な問題の影響を受け、投資家にとって厳しい状況での幕開けとなりました。高止まりするインフレ抑制に向けて、米連邦準備制度理事会（FRB）が利上げによる金融引き締めサイクルを加速するなど、各国中央銀行は積極的な金融政策を講じました。また、ロシア・ウクライナ紛争の影響により、2022年はコモディティ価格が急騰しましたが、2022年10月以降、物価指数は物価上昇ペースの鈍化を示し始め、インフレがピークに達した可能性を示唆する一方、経済指標は景気の鈍化を示しつつも底堅く推移しました。これらを背景に、世界の株式市場は2022年から2023年にかけてボラティリティが高まる局面がみられ、景気後退が差し迫っているとの懸念により、シクリカル株（景気循環株）が低迷し、情報技術などのグロース株が金利上昇の影響を受けました。

2023年に入り、世界の株式市場の焦点は、インフレ動向、労働市場、中央銀行の政策、米国地銀セクターの危機などに向けられ、米国地銀危機への警戒感がくすぶる中、世界株式市場は好調な大型株に牽引され、堅調に推移しました。

【債券市場】

コロナパンデミック後のインフレは、各国中央銀行の当初予想よりも根が深く、ロシアによるウクライナ侵攻の影響も相まって、依然高止まりしています。サプライチェーンが大きく分断され、エネルギーおよび食料の安全保障は、世界各国政府にとって、重要な懸念事項となりました。インフレ抑制に向け、各国中央銀行による迅速且つ積極的なサイクル、また、異例な上げ幅で利上げが実施されたことから、世界の債券利回りは当期にわたって上昇しました。

たとえ景気後退入りしてもインフレ抑制が優先されるとの見方から、イールドカーブはフラット化が進み、逆イールドが発生しました。クレジットスプレッドは前年同期比で拡大しましたが、特に今年に入ってから拡大幅を広げました。2023年3月には、米国のシリコンバレー銀行の破綻や、クレディ・スイスのUBSによる救済買収を受け、銀行システムの流動性への懸念が高まりました。また、5月は、米国の債務上限問題を巡る不透明感を背景に、利回りとクレジットスプレッドのボラティリティが高まりました。

当ファンドのポートフォリオ

（2022年5月31日～2023年5月29日）

<当ファンド>

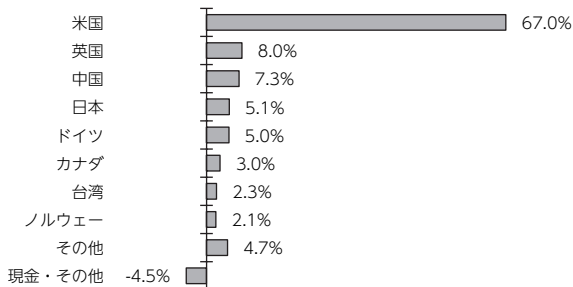
主として外国投資信託証券「L Oファンズ-クライメイト・トランジション（円ヘッジなし ユーロ建）」及び「L Oファンズ-グローバル・クライメイト・ボンド（円ヘッジなし ユーロ建）」への投資を通じて、ESG投資及びインパクト投資の手法により、世界の株式及び債券等（社債、政府保証債、政府機関債、国際機関債等）に投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行いました。

<L Oファンズ - クライメイト・トランジション（円ヘッジなし ユーロ建）>

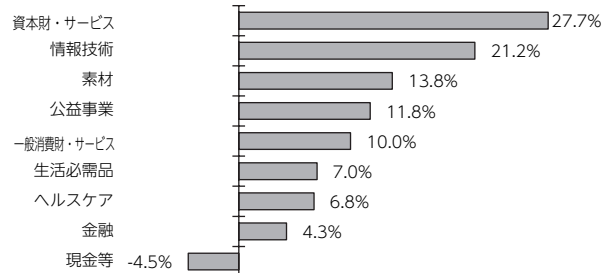
主として世界各国の株式等に投資し、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行いました。また、銘柄の選定にあたっては、ESGの観点を加味し、複数の側面から銘柄の分析を行い、選定いたしました。

なお、直近4月末時点のポートフォリオについては以下の通りとなっています。

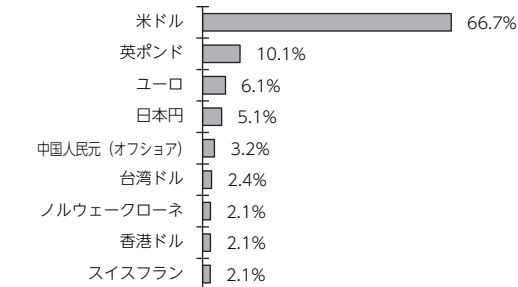
国・地域別構成



業種（セクター）別構成



通貨別構成



※上記比率はいずれも組入投資信託証券の純資産総額に対する割合です。
 ※各構成比率については、四捨五入の関係上、合計が100%とならない場合があります。
 ※業種別構成は世界産業分類基準（GICS）による分類です。

【組入上位10銘柄】

	銘柄名	国・地域	業種	比率
1	SSE (SSE PLC)	英国	公益事業	3.1%
2	ディア (Deere & Company)	米国	資本財・サービス	3.0
3	コンパス・グループ (Compass Group PLC)	英国	一般消費財・サービス	3.0
4	スプラウツ・ファーマーズ・マーケット (Sprouts Farmers Market, Inc)	米国	生活必需品	2.7
5	ヘクセル (Hexcel Corp)	米国	資本財・サービス	2.7
6	クラウン・ホールディングス (Crown Holdings, Inc)	米国	素材	2.6
7	ベントレー・システムズ (Bentley Systems, Inc)	米国	情報技術	2.5
8	グラフィック・パッケージング・ホールディング (Graphic Packaging Holding Co)	米国	素材	2.4
9	サーモフィッシャーサイエンティフィック (Thermo Fisher Scientific, Inc)	米国	ヘルスケア	2.4
10	AES (AES Corp)	米国	公益事業	2.4
組入銘柄数			52銘柄	

※上記比率はいずれも組入投資信託証券の純資産総額に対する割合です。

※組入上位10銘柄に記載の国・地域名は、発行国を表示しているため、主要取引所国とは一致しない場合があります。

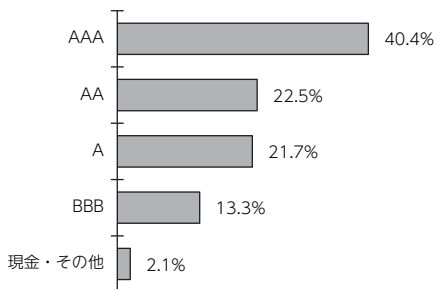
※業種は世界産業分類基準（GICS）による分類です。

<LOファンズ - グローバル・クライメイト・ボンド（円ヘッジなし ユーロ建）>

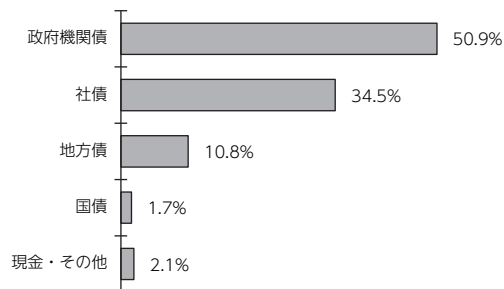
主として世界各国の債券等に投資し、気候変動の抑制/適応への貢献及びソーシャル・インパクトがあると考えられる債券を厳選し、インカム収益の確保と中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行いました。

なお、直近4月末時点のポートフォリオについては以下の通りとなっています。

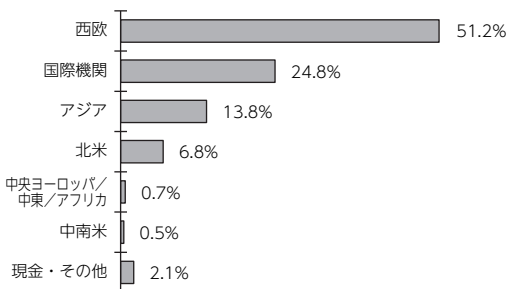
債券格付け構成



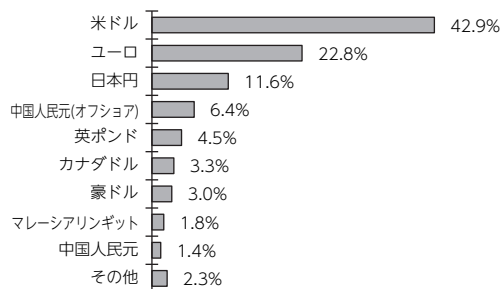
債券種別構成



地域別構成



通貨別構成



※上記比率はいずれも組入投資信託証券の純資産総額に対する割合です。

※格付はS&P・Moody'sの格付けのうち、高い方を記載しています。なお、両社にない場合はFitchの格付けを採用しています。

※各構成比率については、四捨五入の関係上、合計が100%とならない場合があります。

【ポートフォリオ構成】

平均クーポン（％）	1.71
平均残存期間（年）	6.14
平均格付け	AA-
修正デュレーション	5.53
組入銘柄数	178銘柄
最終利回り（％）	3.51

※「クーポン」とは、額面金額に対する単年の利息の割合です。

※格付はS&P・Moody'sの格付けのうち、高い方を記載しています。なお、両社にない場合はFitchの格付けを採用しています。

※「修正デュレーション」とは、債券投資におけるリスク度合いを表す指標の一つであり、金利変動に対する債券価格の反応の大きさ（リスクの大きさ）を表します。

※デュレーションが長いほど債券価格の反応は大きくなります。

※「最終利回り」とは、満期までの保有を前提とした場合における、投資元本に対する収益の割合を表す指標です。

※記載の内容は基準日現在のものであり、将来における運用成果をお約束するものではありません。

【組入上位10銘柄】

	発行体名	国・地域等	債券種別	クーポン	償還日	格付け	比率 %
1	ドイツ復興金融公庫	ドイツ	政府機関債	0.75%	2030/9/30	AAA	4.4%
2	国際開発協会	国際機関	政府機関債	1.00%	2030/12/3	AAA	3.0%
3	オランダ水道整備金融公庫	オランダ	政府機関債	2.38%	2026/3/24	AAA	2.9%
4	欧州投資銀行	国際機関	政府機関債	3.75%	2033/2/14	AAA	2.4%
5	欧州投資銀行	国際機関	政府機関債	1.63%	2031/5/13	AAA	2.4%
6	アジア開発銀行	国際機関	政府機関債	3.13%	2028/9/26	AAA	2.1%
7	住宅金融支援機構	日本	政府機関債	0.61%	2034/12/19	A1	1.9%
8	予防接種のための国際金融ファシリティ (IFFIm)	国際機関	政府機関債	1.00%	2026/4/21	AA+	1.8%
9	カナダ・オンタリオ州	カナダ	地方債	1.55%	2029/11/1	AA-	1.7%
10	国際復興開発銀行	国際機関	政府機関債	2.00%	2026/2/18	AAA	1.7%
	組入銘柄数			178銘柄			

※比率は組入投資信託証券の純資産総額に対する割合です。

※格付はS&P・Moody'sの格付けのうち、高い方を記載しています。なお、両社にない場合はFitchの格付けを採用しています。

※記載の内容は基準日現在のものであり、将来における運用成果をお約束するものではありません。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2022年5月31日～2023年5月29日）

当ファンドは外国投資信託証券への投資を通じて、ESG投資及びインパクト投資の手法により、世界の株式及び債券等（社債、政府保証債、政府機関債、国際機関債等）に投資を行い、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載していません。

分配金

（2022年5月31日～2023年5月29日）

当期は、当ファンドの収益分配方針に基づき、収益分配可能額を算出し、市況動向や基準価額等を考慮した結果、当期の収益分配は行わないことといたしました。

なお、収益分配にあてなかった利益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第4期
	2022年5月31日～ 2023年5月29日
当期分配金	－
（対基準価額比率）	－%
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	2,718

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の見通しと運用方針

<当ファンド>

引き続き、外国投資信託証券「LOファンズ-クライメイト・トランジション（円ヘッジなし ユーロ建）」及び「LOファンズ-グローバル・クライメイト・ボンド（円ヘッジなし ユーロ建）」への投資を通じて、ESG投資及びインパクト投資の手法により、世界の株式及び債券等（社債、政府保証債、政府機関債、国際機関債等）に投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。

なお、運用にあたっては、実質基本投資割合を株式50%、債券50%を基準として±10%の範囲を原則としつつ運用を行います。

<LOファンズ-クライメイト・トランジション（円ヘッジなし ユーロ建）>及び

<LOファンズ-グローバル・クライメイト・ボンド（円ヘッジなし ユーロ建）>

当該外国投資信託を運用している、ロンバー・オディエ社は、以下のようにコメントをしています。

銀行セクターの混乱は、2022年の急激な利上げが今になって経済全体に作用し、弱小企業や、財務レバレッジの高い企業、ハイリスク企業などに最も打撃を与えていることを示しています。各国中央銀行は、長期に及んだ金融緩和政策の後に、ようやく築いた正常金利への道筋を覆すことには二の足を踏むとみられることから、市場の利下げ観測は時期尚早と考えられます。経済は一連の逆風にさらされ、ボラティリティは高止まりすると予想されますが、緩やかながら回復が続くと予想されます。

株式運用においては、魅力的な水準にある優良銘柄の選定および質の高いファンダメンタルズ分析を維持し、景気サイクルに左右されにくい成長機会を追求します。

債券運用においては、堅調に推移しているインパクトボンド発行市場において、魅力的な利回り水準が得られる投資機会を追求していく方針です。

お知らせ

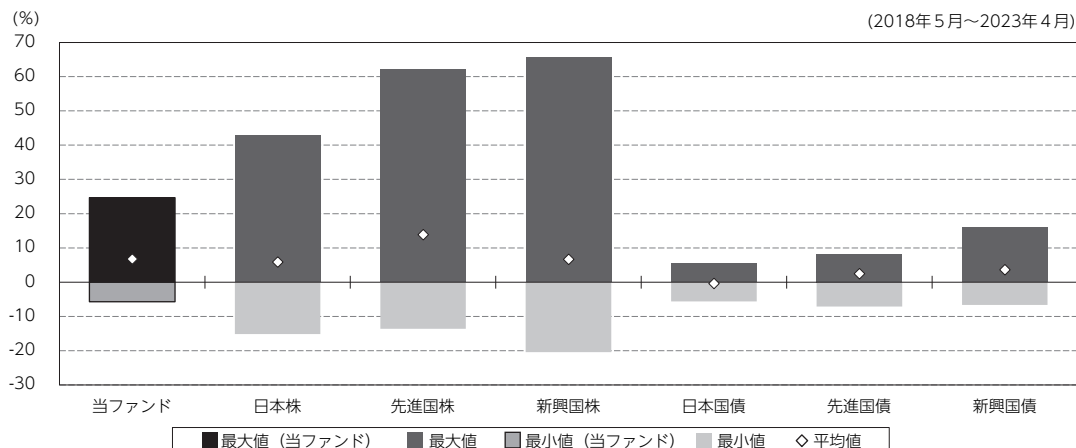
該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	信託期間：2029年5月28日まで（設定日：2019年5月30日）
運用方針	この投資信託は、ESG投資及びインパクト投資の手法により、世界の株式及び債券等（社債、政府保証債、政府機関債、国際機関債等）に投資し、実質基本投資割合を株式50%、債券50%を基準として±10%の範囲を原則としつつ運用を行います。なお、実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。
主要投資対象	外国投資信託証券「LOファンズ-クライメイト・トランジション（円ヘッジなし ユーロ建）」及び「LOファンズ-グローバル・クライメイト・ボンド（円ヘッジなし ユーロ建）」を主要投資対象とします。
運用方法	主として外国投資信託証券「LOファンズ-クライメイト・トランジション（円ヘッジなし ユーロ建）」及び「LOファンズ-グローバル・クライメイト・ボンド（円ヘッジなし ユーロ建）」への投資を通じて、ESG投資及びインパクト投資の手法により、世界の株式及び債券等（社債、政府保証債、政府機関債、国際機関債等）に投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。なお、実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
分配方針	毎決算時（年1回、毎年5月28日。休業日の場合は翌営業日）に、原則として以下の方針により、分配を行います。分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当等収益及び売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。また、将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。収益分配にあてず信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	24.7	42.8	62.2	65.6	5.5	8.3	16.0
最小値	△ 5.7	△ 15.1	△ 13.6	△ 20.4	△ 5.6	△ 7.1	△ 6.6
平均値	6.8	5.9	13.8	6.7	△ 0.4	2.5	3.6

(注1) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 2018年5月から2023年4月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注3) 当ファンドについては設定日以降のデータが5年に満たないため、2020年5月末から2023年4月末のデータを基に算出しています。したがって、代表的な資産クラスとの比較対象期間が異なります。

(注4) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注5) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《代表的な各資産クラスの指数》

日本株…Morningstar 日本株式指数

先進国株…Morningstar 先進国株式指数（除く日本）

新興国株…Morningstar 新興国株式指数

日本国債…Morningstar 日本国債指数

先進国債…Morningstar グローバル国債指数（除く日本）

新興国債…Morningstar 新興国ソブリン債指数

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。各指数は、全て税引前利子・配当込み指数です。

*各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

（2023年5月29日現在）

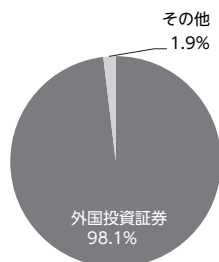
○組入上位ファンド

銘柄名	第4期末
	%
LOファンズ-クライメイト・トランジション (円ヘッジなし ユーロ建)	51.5
LOファンズ-グローバル・クライメイト・ボンド (円ヘッジなし ユーロ建)	46.6
組入銘柄数	2銘柄

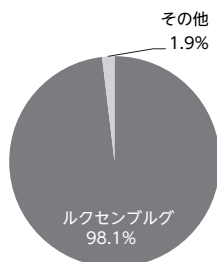
（注1）組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

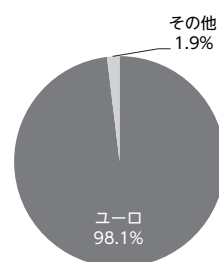
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注1）資産別・国別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

（注2）国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しています。

純資産等

項目	第4期末
	2023年5月29日
純資産総額	1,420,819,372円
受益権総口数	1,117,093,393口
1万口当たり基準価額	12,719円

（注）期中における追加設定元本額は511,559,345円、同解約元本額は173,591,697円です。

組入上位ファンドの概要

L Oファンズ-クライメイト・トランジション（円ヘッジなし ユーロ建）

作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書をもとに作成しております。

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

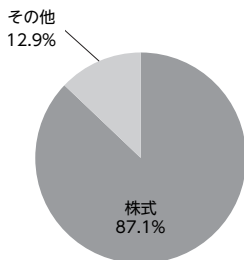
入手可能な費用明細のデータが存在しないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

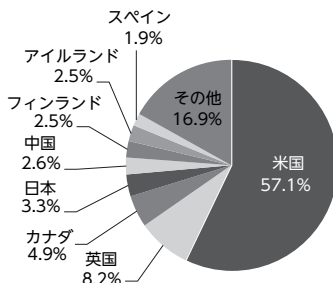
(2022年9月30日現在)

銘柄名	国・地域	通貨	業種名	比率
1 ネクステラ・エナジー	米国	ドル	公益事業	3.3%
2 アクセンチュア	米国	ドル	情報技術	3.0%
3 アメリカン・ウォーター・ワークス	米国	ドル	公益事業	2.8%
4 ダナハー	米国	ドル	ヘルスケア	2.8%
5 ディア	米国	ドル	資本財・サービス	2.7%
6 ケイデンス・デザイン・システムズ	米国	ドル	情報技術	2.6%
7 センサータ	米国	ドル	資本財・サービス	2.5%
8 AES	米国	ドル	公益事業	2.4%
9 シマノ	日本	円	一般消費財・サービス	2.3%
10 コナグラ・ブランド	米国	ドル	生活必需品	2.3%
組入銘柄数			60銘柄	

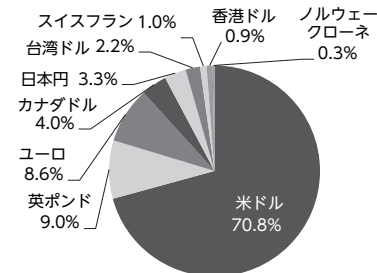
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2022年9月30日現在のものです。

(注2) 比率はいずれも主要組入投資信託証券の純資産総額に対する割合です。

(注3) 資産別配分、国別配分、通貨別配分は小数点第2位で四捨五入しているため、合計が100%に満たない場合があります。

(注4) 業種は世界産業分類基準（GICS）による分類です。

LOファンズ-グローバル・クライメイト・ボンド（円ヘッジなし ユーロ建）

作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書をもとに作成しております。

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

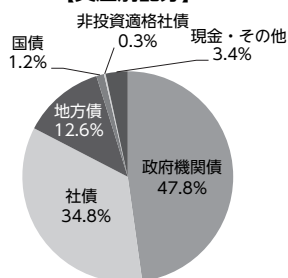
入手可能な費用明細のデータが存在しないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

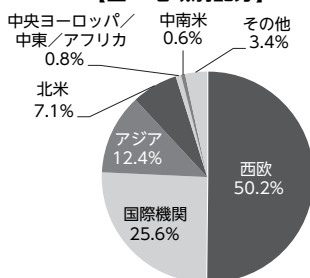
(2022年9月30日現在)

銘柄名	国・地域	債券種別	比率
1 ドイツ復興金融公庫	ドイツ	政府機関債	4.6%
2 オランダ水道整備金融公庫	オランダ	政府機関債	3.3%
3 国際開発協会	国際機関	政府機関債	3.1%
4 国際復興開発銀行	国際機関	政府機関債	2.7%
5 アジア開発銀行	国際機関	政府機関債	2.5%
6 欧州投資銀行	国際機関	政府機関債	2.3%
7 ドイツ復興金融公庫	ドイツ	政府機関債	2.0%
8 国際復興開発銀行	国際機関	政府機関債	1.7%
9 カナダ・オンタリオ州	カナダ	地方債	1.7%
10 欧州投資銀行	国際機関	政府機関債	1.6%
組入銘柄数	172銘柄		

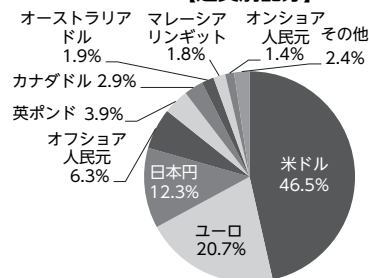
【資産別配分】



【国・地域別配分】



【通貨別配分】



(注1) 組入上位10銘柄、資産別配分、国・地域別配分、通貨別配分のデータは2022年9月30日現在のものです。

(注2) 比率はいずれも主要組入投資信託証券のポートフォリオに対する割合です。

(注3) 資産別配分、国・地域別配分、通貨別配分は小数点第2位で四捨五入しているため、合計が100%に満たない場合があります。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

<各指数の概要>

- 日本株：Morningstar 日本株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。
- 先進国株：Morningstar 先進国株式指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。
- 新興国株：Morningstar 新興国株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。
- 日本国債：Morningstar 日本国債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。
- 先進国債：Morningstar グローバル国債指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。
- 新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

<重要事項>

本ファンドは、Morningstar, Inc.、又はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc.が支配する会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に本ファンドに投資することの当否、または本ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動するMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」と言います）の能力について、本ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。本ファンドとの関連においては、委託会社とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstarインデックスの使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが委託会社又は本ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、委託会社又は本ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、本ファンドの基準価額及び設定金額あるいは本ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または本ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、本ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び／又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、委託会社、本ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。